

朱萑志のぶがかり上

15-463



1200501229318

15
463



始



序

平安の末寝鴻原世由喜戸人城乃常乃腸持之寂光
 去妙より酒ふりてまじり酒方乃乱来世由喜戸人城乃
 けくし。白鳥の細き時づこひしと唯をへん可通入路
 あり。六箇の所へ六道のち内とらとをたす。常にまに
 して。酒ふ和服の乳をさせり。物つきた生えても
 此高の露。湯逆流かて。黄金の光と映ず。流紅酒風
 柔床かいて。伽羅乃香散くたり。法方乃格。空の妙
 箱ととむを。空中より。奉屋かす。係まらる。雨
 のごとし。清涼値遇の女菩薩。死。天眼。毎とりて
 此事と。定規。奉屋の下。女お。業。す。い。ゆ。形。く。ある



珈と押あぐり判那にきて大敷事至乃香とつぐゆさ
よめて井森雨乃巾子と放して蘭湯か浴し沈水了
澡ご響鏡ふひひて粧つくり終り紫翠の髪と揃
花あかりし一輪けり響響してひはらうつし
或は物乃投寫田あひくに響響し玉乃珈として幅
あゆ湯文字とわ膚にふき火沖中うお様ゆり珍
きる衣の裾裾とくあおすそひろがわにせん
中入為なる幅帯お法はあそりけりして尻
乃うと響鏡ひく響鏡あうもこころざし
つことと揮し。花裾のつくりあまきりし朱乃をか
然してお茶とゆへんとさ。大敷あゆり響鏡遺所

圓鏡せられあぐり後の天蓋とけりせて遊外てい糸白
あり。みるまうちりに珍あおゆり。花のる裾あお天う
好乃物と向し湛玉。玉裾上下に旋物とれた。花の唇り
らうびてゆり。頭乃ねとぬし。花あゆり。響鏡すつそ
ざらあゆり。あゆり。あゆり。真扇あて床入とらす。
珊瑚のたふ湯のり。梅干。浴を帯ひてあ眼糸のどと
し。珊瑚の層ふ漬漬とひまよとひく。あまのあ押梳と
あぐり。愛お風集。息あらし。金玉の屏風あられ。初
花中。の号。お初をとおせり。あまきり。あまきり。あまきり。
立て。あまきり。あまきり。あまきり。あまきり。あまきり。
世も六九有生の世。あまきり。あまきり。あまきり。あまきり。あまきり。

かゝるものゝほゞりなり

自筆第拾九月日

評判

文法

好文

南花

女即名家の

松

まゝ海

花みどり

うしろ

花はさ

くま

まは

米ぶ

梅

杉が

またたいしやあまの晴す評判をまのつら
みま

奥列

合々

野う

より

あ

お

い

和らう
とらやゆ
しらん
らん女
うのふ
数れ
ふれ
うづら
らん
らん
らん
らん

らん
わらく
わらえ
とら
おゆ
おゆ
うま
野
あ
こ
若

長
はか
あは
や
お
らん
らん
らん
らん
らん

つ
らん
らん
らん
らん
らん
らん
らん
らん
らん



たねうらみて尸をかたむね。面白くないの女房あり。法乃
乃智もたぢねえ。戸あさる。なつたおつたおつた。お
こゝろあつた。床入あつた。おのちあつた。おのちあつた。お
それあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
為るあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
床乃あつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
あつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
毒あつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
とあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
つた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
乃あつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お

とあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お

おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
あり。面白くないの女房あり。法乃あつた。おのちあつた。お
ゆりあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お

奥列

おのちあつた

おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お
おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。おのちあつた。お

にお分てやつたし。ほららに肥わぶらづさたる腫のそら
 くらよのそたをらまて自らちり。他人はあつと。後して
 後乃山に上いてに十にのきいんていんをね。に十九段の
 腫久のたは併と。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 小あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 たり。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 〇誰か云はんと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 ひろし。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 いら。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 く。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

昔あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 いら。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 初乃月上。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 いら。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 中じつ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 れあつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

夕方

はな

三すす。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 いら。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 して。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

新艘(しんそう)なりどりくゆりきつる中(なか) 漢(かん)意(い)術(じゆつ)のまはりあふが難(なん)
にたしく舞(ま)てく海(うみ)をめぐりてお島(しま)の女(にむ)ふれ先(さき)つらあり
げつとりきくそと恭(きょう)しくおのまをまじりていひくそと難(なん)
先(さき)源(げん)別(べつ)なりは海(うみ)流(りゅう)と流(りゅう)まひりし先(さき)上(かみ)よりくやいり
入(い)りかきか海(うみ)を流(りゅう)すくつらありさくをいりし先(さき)かやいりおまを流(りゅう)
あすまふ月(つき)あめのはやみ雨(あめ)世(よ)上(かみ)乃(の)りあまがなないらり
まらそとまきとのつに茶(ちや)類(るい)あなな人(ひと)におはなれなるる茶(ちや)業(ぎふ)
平(ひら)此(こ)侍(ざむらい)校(がう)あすけしそと秘(ひ)曲(まげ)とくもとも上(かみ)子の拍子(びやくし)役(やく)志(し)志(し)
りあもつそと能(よ)ちま更(ま)が舞(ま)いそとゆきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)
上(かみ)おのりま流(りゅう)板(いた)上(かみ)より下(かみ)と流(りゅう)うし流(りゅう)分(ぶん)のぬたとあすそと
○難(なん)に云(い)ひはのりまとも海(うみ)さしそとむきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)
りあもつそと能(よ)ちま更(ま)が舞(ま)いそとゆきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)

上

下

足(あし)第(だい)一(いつ)の根(ね)生(な)砂(さ)の排(はい)ごう免(めん)し流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)免(めん)し流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)免(めん)
あすそとまきとのつに茶(ちや)類(るい)あなな人(ひと)におはなれなるる茶(ちや)業(ぎふ)
平(ひら)此(こ)侍(ざむらい)校(がう)あすけしそと秘(ひ)曲(まげ)とくもとも上(かみ)子の拍子(びやくし)役(やく)志(し)志(し)
りあもつそと能(よ)ちま更(ま)が舞(ま)いそとゆきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)
上(かみ)おのりま流(りゅう)板(いた)上(かみ)より下(かみ)と流(りゅう)うし流(りゅう)分(ぶん)のぬたとあすそと
○難(なん)に云(い)ひはのりまとも海(うみ)さしそとむきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)
りあもつそと能(よ)ちま更(ま)が舞(ま)いそとゆきとくもとも流(りゅう)ま流(りゅう)方(かた)格(がく)

上

下

金太郎文

上野町上林が老翁の肉

西の道は... 蟬翅... 風... 虫... 雲... 水...
 西の道は... 蟬翅... 風... 虫... 雲... 水...
 西の道は... 蟬翅... 風... 虫... 雲... 水...

金作 月上石...
 金作 月上石...

おきき

おきき

おきき... 古... 杯... 片...
 おきき... 古... 杯... 片...

おきき...
 おきき...

可也此後はだらりありの花はなほうらまぬなり。天晴は更
 ぞくらく。お後そめていりて貴き面なり。利害ありて進疾くは
 ぬなりうらうらとわたり。風林ぬまきまのこたか
 ちゆ中し物乃若は小ち更とらひてほめぬあせり
 あり。ゆ葉ししあかあは移りて疾りつゝ急えあはば未
 うけてのえかしく。賢性く年とらひやて扱治り
 名山畑やうす中お宿るはくつと。さきさきはた
 ぬらありしとあられり。きうしあは。ほりおきてやれ
 産ありしとあらば更お宿るはくつと。さきさきはた
 ぬらありしとあられり。きうしあは。ほりおきてやれ

野風

奉登町とら寝るうらまぬ

ぞくらくしとあられり。きうしあは。ほりおきてやれ
 ぬらありしとあらば更お宿るはくつと。さきさきはた
 てとち更しとあらば更お宿るはくつと。さきさきはた
 水際清くたらりのびたきうしあは。ほりおきてやれ
 人あひ目をとらひたり。婢約晴る眼かへんもつえぬ
 意が情ありつと。お後そめていりて貴き面なり。利害ありて進疾くは
 ぬなりうらうらとわたり。風林ぬまきまのこたか
 ちゆ中し物乃若は小ち更とらひてほめぬあせり
 あり。ゆ葉ししあかあは移りて疾りつゝ急えあはば未
 うけてのえかしく。賢性く年とらひやて扱治り
 名山畑やうす中お宿るはくつと。さきさきはた
 ぬらありしとあられり。きうしあは。ほりおきてやれ
 産ありしとあらば更お宿るはくつと。さきさきはた
 ぬらありしとあられり。きうしあは。ほりおきてやれ

好情の事もきく候又千中そつありらもと若きも弱
いせの保と云ふ出入呼吸たがうず持のたおほ保城が
勇と云はるく内一戦でひつるを人仕候く血縁と
たひじしめい。世人つと世のひくわ若千の男に執
てつと世の世は保の師お論らきし一書を巻くし按に
世人大性殺めかても人おれあまをす。はまごいあ出す
人のあたいんとあけしやせひひしひくのぞあらす

花野 切面神中庸自勉らうつろして
ゆきう移るもの年終中をむ利にいてほる奥
つて度しは茶上てはぬもままあつおのろきあへ
お人あ強そがの候とれた。揚屋の二階鳴動すれ

あり。種い久らあ面ぞが俄ふもあどくらたる

古野

上之町格校屋八右衛門

西武揚もあへべ一を静くまら申一赤一風あり。いせん
風流し。いん流平をむし。海がうな奥るな。一歳
もづらひのいん肉つとも。あま候くしてまらどく。は茶
し。本入うたま。あまあり。はて世人の振ぎし。あの
吉野乃らからかあ。妹。う海せんが
統者 須鹿 女初をいしておあま一人だらあま
あらこのいん。あまてはくうい。は振一な。は茶中
あして出すたあつこ

とまきくは乃新撰あり。公生を友乃多答をたが化身
 形り。西定容けし時。やう。るま蔵いながら。はざり
 りあるし。さらぬ。如印に化作あり。あぐら。おま
 てつんこののりけはく。南宮中納言。ゆい。その中傷致
 ぼく。いし。はく。い。お化し。○誰云は茶意の
 紙衣やさるるやうには。中。く。毛がさる。

月 和壽心 容後ばら。海部氏。乃。山。葉。上。お
 松平三浦氏。大。助。り。く。見。秘。る。の。り。て。お。の。お
 る。や。お。の。り。德。ま。さ。え。ん。ち。必。ら。れ。る。と。思。は。れ。ま。す。
 し。海。部。氏。の。後。膳。を。く。さ。す。あり。考。察。心。

中乃徳

ちのたけ

秘を更。西。秘。の。は。ん。だ。ん。を。う。め。り。た。る。を。た。り。て。ん。さ。り。と。し。て。床
 又。海。部。氏。の。ま。ま。は。ら。て。う。ゆ。く。ず。遠。西。海。部。氏。

月 和泉 而。秘。ま。の。く。あり。後。更。海。部。氏。

さら。ら。し。る。や。ゆ。め。あ。ま。あ。り。と。ど。こ。も。ら。で。摸。平。と
 さ。だ。め。て。ひ。ひ。こ。す。お。し。し。う。統。志。の。更。に。後。と。つ
 ろ。と。い。ふ。か。り。か。り。く。ま。れ。ぬ。お。り。つ。と。し。い。と。さ。ま。し。

つ。鏡。も。た。か。ら。ゆ。い。鼻。お。ま。ら。は。の。茶。中。へ。お。の。れ。ま。

とも。く。え。る。あ。ら。わ。り。と。る。内。の。蠟。が。紙。集。す。る。

以上 和文官供

15
463

印行五部之内
第幼本二册

昭和三年七月廿五日印刷
昭和三年七月廿八日發行

第五期
第二十一回

會製複書稀

品賣非

東京市牛込區富久町八十四番地
編輯兼發行者 山田清次
印刷者 大塚祐次
印刷者 阿部鍋五郎
發行所 米山堂
東京市牛込區富久町八十四番地

電話四三三〇九號
四三三〇六號

終

